

## 令和元年度 杏林大学 高校生対象 大学教養レベル「グローバル関連科目」

## 夏期集中講座 実施要項

〈高校生対象 大学教養レベル「グローバル関連科目」夏期集中講座とは〉

高校と大学では授業形態が異なります。意欲や能力のある高校生が大学の科目を大学生とともに受講することで、自己を高めるとともに高校から大学へのスムーズな移行を目指します。

また、**選択した科目において講義にすべて出席し、合格と認められた者には、アドバンスト・プレイスメント（科目等履修生扱いとして杏林大学の正規の単位を認定する制度）として単位認定を行います。**詳しくは別紙をご確認ください。

〈資格・対象者〉 高等学校・中等教育学校に在学している高校生。

〈開講期間〉 令和元年 8 月 26 日(月)～令和元年 8 月 31 日(土)の期間のうち、選択した期間。

〈受講料〉 無料

〈受講科目〉 別紙のシラバスおよび時間割参照

〈アドバンスト・プレイスメントの単位認定〉

受講選択した科目において全ての授業に出席し、合格と認定された者には AP 単位認定書と成績評価証明書を発行する。

〈保険加入〉 科目等を受講するための杏林大学までの通学、および科目等において学内活動・学外活動する為の傷害・賠償保険は、所属高等学校または自らの責任で加入することとする。

〈開講場所〉 杏林大学井の頭キャンパス 〒181-8612 東京都三鷹市下連雀 5-4-1

※受講教室については時間割をご覧ください。

※駐車場・駐輪場はございませんので公共交通機関をご利用ください。

〈応募方法〉 応募期間内に次の書類を杏林大学 高大接続推進室宛に郵送または FAX にてご提出ください。

①受講申込書(提出用①)

②受講科目選択表(提出用②)

〈郵送および FAX 先〉

〒181-8612 東京都三鷹市下連雀 5-4-1  
杏林大学 井の頭キャンパス 高大接続推進室  
FAX:0422-47-8056

〈締切〉

**令和元年 8 月 7 日(水)**  
**必着**

〈お問い合わせ先〉

杏林大学 井の頭キャンパス 高大接続推進室

TEL:0422-47-8000 担当:青柳、安達

E-mail:koudai@ks.kyorin-u.ac.jp

令和元年度 杏林大学 高校生対象  
 大学教養レベル「グローバル関連科目」夏期集中講座 履修申込書

記入日	令和元年	月	日
フリガナ			性別
氏名			男・女
生年月日	平成	年	月 日 ( 歳)
高等学校	高等学校 学年 組		
自宅住所	〒		
自宅電話番号		個人Eメール	
受講動機			

緊急連絡先	フリガナ	
	氏名	本人との関係 ( )
	電話番号	
保護者記入欄	ご署名・ご捺印をお願いします。 「杏林大学 高校生対象 大学教養レベル「グローバル関連科目」夏期集中講座」の 科目履修を承諾します。 令和元年 月 日 保護者氏名 (印) (続柄)	

<申込締切> **令和元年8月7日(水) 必着**

<提出先> ※郵送またはFAXにてご提出ください。  
 〒181-8612 東京都三鷹市下連雀5-4-1  
 杏林大学 高大接続推進室  
 FAX : 0422-47-8056

## 令和元年度 杏林大学 高校生対象 大学教養レベル 「グローバル関連科目」 夏期集中講座 受講科目選択表

履修希望科目を下記から選び、選択枠の中に○印をつけてください。 複数選択も可能です。

時間割とシラバス（授業内容）は別紙をご覧ください。

氏名 \_\_\_\_\_

高等学校名 \_\_\_\_\_

高等学校 \_\_\_\_\_

学年 \_\_\_\_\_

組 \_\_\_\_\_

選択 (○印)						
科目	科目A (1単位)		科目B (1単位)	科目C (1単位)		
	杏林ガイゴ・ライブラリー			英語と日本語で学ぶ「社会のしくみ」入門		
	中国語系		英語系	総合政策系		
担当教員	荒川みどり教授、稲垣大輔教授、岩本和良教授、志村良浩教授、遠山菊夫教授、北村一真准教授、倉林秀男准教授、千野万里子准教授、西山桂子准教授、安江枝里子准教授、海谷千波講師、藤田由香利講師			小田信之教授、北島勉教授、知原信良教授、三浦秀之准教授、加藤拓講師、長谷部弘道講師、松井孝太講師、ミシェル ジョエル講師		
日程	1日目	2日目	予備日	4日目	5日目	予備日
	8月26日	8月27日	8月28日	8月29日	8月30日	8月31日
	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)
時限	1~4限			1~4限		

※科目A・Bにつきましては、期間中に共催される講義もあります。また、定員18名・高校生のみのお受講とさせていただきます。

1限	09:00 ~ 10:30
2限	10:40 ~ 12:10
3限	13:00 ~ 14:30
4限	14:40 ~ 16:10
5限	16:20 ~ 17:50

<申込締切> **令和元年8月7日(水) 必着**

<提出先> ※郵送またはFAXにてご提出ください。

〒181-8612 東京都三鷹市下連雀5-4-1  
杏林大学 高大接続推進室  
FAX : 0422-47-8056

## アドバンスト・プレースメントについて

杏 林 大 学  
高大接続推進室

アドバンスト・プレースメントとは、意欲のある高校生が大学の授業を履修し、合格・修了した場合に、大学の正規の単位として認められる制度です。

単位は杏林大学の入学後に有効となります。履修の費用はかかりません。

また、本学と単位互換協定を結んでいる各大学（※）に入学した場合も入学後に単位が認められる可能性があります。

（※）協定大学：桜美林大学、創価大学、共愛学園前橋国際大学（五十音順）

以上

令和元年度 高校生対象・大学教養レベル「グローバル関連科目」夏期集中講座

時間割

科目	科目A   科目B		科目C			
	杏林ガイゴ・ライブラリー		英語と日本語で学ぶ「社会のしくみ」入門			
	中国語系 (科目A)   英語系 (科目B)		総合政策系			
担当教員	荒川みどり教授、稲垣大輔教授、岩本和良教授、志村良浩教授、遠山菊夫教授、北村一真准教授、倉林秀男准教授、千野万里子准教授、西山桂子准教授、安江枝里子准教授、海谷千波講師、藤田由香利講師		小田信之教授、北島勉教授、知原信良教授、三浦秀之准教授、加藤拓講師、長谷部弘道講師、松井孝太講師、ミシェル ジョエル講師			
日程	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目
	8月26日 (月)	8月27日 (火)	8月28日 (水)	8月29日 (木)	8月30日 (金)	8月31日 (土)
1限 9:00～ 10:30	講義及び アクティブ ラーニング	アクティブ ラーニング	予備日	講義 または アクティブ ラーニング	講義 または アクティブ ラーニング	予備日
担当教員	海谷・各教員	海谷・藤田		三浦	松井	
教室	D105 各研究室	図書館		D105	D105	
2限 10:40～ 12:10	アクティブ ラーニング	アクティブ ラーニング		講義 または アクティブ ラーニング	講義 または アクティブ ラーニング	
担当教員	各教員	海谷・藤田		北島	加藤	
教室	各研究室	図書館		D105	D105	
昼食		昼食		昼食	昼食	
3限 13:00～ 14:30	アクティブ ラーニング	アクティブ ラーニング		講義 または アクティブ ラーニング	講義 または アクティブ ラーニング	
担当教員	各教員	海谷・藤田		小田	ジョエル	
教室	各研究室	F棟交流プラザ 英語・中国語サロン ライティングセンター		D105	D105	
4限 14:40～ 16:10	講義及び アクティブ ラーニング	プレゼン コンテスト	講義 または アクティブ ラーニング	講義 または アクティブ ラーニング		
担当教員	藤田・各教員	稲垣	知原	長谷部		
教室	D105 各研究室	F棟交流プラザ	D105	D105		

※科目A・Bにつきましては、期間中に共催される講義もあります。定員18名。

<b>科目 A</b>	令和元年 8 月 26 日・27 日 1 限から 4 限 (9:00~16:10) 1 単位						
開講開始年度	2019						
授業コード	(記入無用)						
担当教員	荒川みどり、稲垣大輔、岩本和良、志村良浩、遠山菊夫、北村一真、倉林秀男、千野万里子、西山桂子、安江枝里子、海谷千波、藤田由香利						
科目	杏林ガイゴ・ライブラリー (科目 A)						
授業概要 (必須)	<p>①対象：「グローバル化」に疑問を持ち、新たな視座を提案しようとする者。</p> <p>②目的：「グローバル化」と呼ばれる現象の現状、課題、原因・背景を把握し、主体的に解決する知識と技能の素地を身につけるとともに、英語で自分の考えや意見を表現できる。</p> <p>③内容：言語学 (英語・中国語)、社会言語学、音韻論 (イントネーション)、英語文化、英語学習、外国語教育 (英語・中国語・日本語教育)、文明論、多文化共生、観光文化論、航空サービス、ホテル経営など、様々な専門分野の視点から、「グローバル化」の課題に対してどのようなアプローチが可能かを探求する。</p> <p>④方法：Face-to-Face の学びの実践として、(ア) 大学教員と問答・対話するとともに、(イ) 受講生同士で協力し合いながら、参考文献を調べ、議論し、資料作成し、自分達の考えや意見を発表する。</p>						
到達目標 (必須)	「グローバル化」を題材に課題解決能力と中国語表現能力の素地を修得する。						
授業計画 (必須)	<p><b>【1 日目】(各セクション 45 分、授業形式：キーワードに関する教員と受講生との問答や対話)</b></p> <p><b>第 1 セクション 全体説明及び全体講義</b>  「グローバル化とその先へ」(担当者：講師・海谷千波)  キーワード：政治・経済／画一化と多様化／グローバル化／多文化／コミュニケーション</p> <p><b>第 2 セクション～第 7 セクション 「読書 (=教員との対話)」</b></p> <table border="1"> <tr> <td>「私たちの生きる社会」(著者：教授・荒川みどり) キーワード：多文化共生／複言語コミュニケーション／言語マイノリティ／国境を越える人々／日本語教育</td> </tr> <tr> <td>「試験では問われない、でもとても重要な英語の側面」(著者：教授・岩本和良) キーワード：イントネーション／意味／選択肢／コンテキスト</td> </tr> <tr> <td>「航空業界から見るグローバル化」(著者：教授・志村良浩) キーワード：航空／観光／旅行／アライアンス／LCC／異文化</td> </tr> <tr> <td>「グローバル化と文明」(著者：教授・遠山菊夫) キーワード：コロンブス交換／高度消費資本主義／情報革命／国民国家の終焉／文明と言語</td> </tr> <tr> <td>「学習英文法で映画のセリフを理解する」(著者：准教授・北村一真) キーワード：英文法／実用英語／映画／リスニング／リーディング</td> </tr> <tr> <td>「公共サインとコミュニケーション」(著者：准教授・倉林秀男) キーワード：コミュニケーション／英語／外国人観光客／公共サイン／異文化・多文化へ</td> </tr> </table>	「私たちの生きる社会」(著者：教授・荒川みどり) キーワード：多文化共生／複言語コミュニケーション／言語マイノリティ／国境を越える人々／日本語教育	「試験では問われない、でもとても重要な英語の側面」(著者：教授・岩本和良) キーワード：イントネーション／意味／選択肢／コンテキスト	「航空業界から見るグローバル化」(著者：教授・志村良浩) キーワード：航空／観光／旅行／アライアンス／LCC／異文化	「グローバル化と文明」(著者：教授・遠山菊夫) キーワード：コロンブス交換／高度消費資本主義／情報革命／国民国家の終焉／文明と言語	「学習英文法で映画のセリフを理解する」(著者：准教授・北村一真) キーワード：英文法／実用英語／映画／リスニング／リーディング	「公共サインとコミュニケーション」(著者：准教授・倉林秀男) キーワード：コミュニケーション／英語／外国人観光客／公共サイン／異文化・多文化へ
「私たちの生きる社会」(著者：教授・荒川みどり) キーワード：多文化共生／複言語コミュニケーション／言語マイノリティ／国境を越える人々／日本語教育							
「試験では問われない、でもとても重要な英語の側面」(著者：教授・岩本和良) キーワード：イントネーション／意味／選択肢／コンテキスト							
「航空業界から見るグローバル化」(著者：教授・志村良浩) キーワード：航空／観光／旅行／アライアンス／LCC／異文化							
「グローバル化と文明」(著者：教授・遠山菊夫) キーワード：コロンブス交換／高度消費資本主義／情報革命／国民国家の終焉／文明と言語							
「学習英文法で映画のセリフを理解する」(著者：准教授・北村一真) キーワード：英文法／実用英語／映画／リスニング／リーディング							
「公共サインとコミュニケーション」(著者：准教授・倉林秀男) キーワード：コミュニケーション／英語／外国人観光客／公共サイン／異文化・多文化へ							

	<p>の適応</p> <p>「グローバル化と中国語」(著者:准教授・千野万里子)        キーワード:中国語/一带一路/国際公用語/漢字文化圏/日本語</p> <p>「ホテル産業のグローバル化」(著者:准教授・西山桂子)        キーワード:世界のホテルチェーン/グローバル経営/ホテルの投資と開発/ホテル運営</p> <p>「グローバル化で変化する日本の観光地の風景」(著者:准教授・安江枝里子)        キーワード:グローバリゼーションズ/観光地の風景/ゲストハウス/脱文脈化</p> <p><b>第8セクション 全体講義及び学習の振り返り</b>        「グローバル化と言語」(担当者:講師・藤田由香利)        キーワード:中国語/通訳/翻訳/教育/多文化</p> <p><b>【2日目】(各セクション45分、授業形式:「プロジェクト学習」(鈴木、2012)の手法を応用した受講生同士による議論、発表準備及び、発表)</b></p> <p><b>第1セクション 準備</b>(担当者:講師・海谷千波)        (1) 協働学習の流れを知り、題材を意識する。(1) 現実から課題を見出す。</p> <p><b>第2セクション ビジョン・ゴール、計画</b>(担当者:講師・海谷千波)        (1) グループの目的と目標を決める。(2) 課題を「具体的な目標」に変える。(3) ゴール達成への手順を考え、限られた時間ですべき優先順位を考え出す。</p> <p><b>第3セクション～第4セクション 情報・解決策</b>(担当者:講師・海谷千波)        (1) 情報を獲得し、グループで議論する。(2) 課題解決策を考え出す。</p> <p><b>第5セクション～第6セクション 制作</b>(担当者:講師・海谷千波)        (1) プレゼン資料を簡単な中国語を交えて制作する。(2) わかりやすい表現、瞬間的に伝えられる表現を工夫する。</p> <p><b>第7セクション～第8セクション プレゼン・コンテスト</b>(担当者:教授・稲垣大輔)        (1) グループの提案を簡単な中国語を交えて発表する。(2) 他グループの発表から自らの改善点を学ぶ。(3) 自分の成長や考え方の変化などを確認する。</p>
準備学習 (必須)	1日目の第2セクションから第7セクションまでの「読書(=教員との対話)」に備えて、各「本(=対話のテーマ)」のキーワードについて自分で興味関心を持ち、疑問点を調べ、質問を用意する。
テキスト (必須)	なし。
参考書	1日目 「読書(=教員との対話)」を通して紹介される、専門書、論文、雑誌など。

	2 日目 鈴木敏恵 (2012). 『課題解決力と論理的思考力が身につくプロジェクト学習の基本と手順』. 教育出版株式会社.
評価方法 (必須)	1 日目の「学習ポートフォリオ」及び、2 日目の協働学習とプレゼン・コンテストを総合的に 評価する。
URL	
備考	1. 定員 18 名 (高校生のみ)。 2. 2 日目 (8 月 27 日 (火) 予定) の学習活動は、参加する高校生の所属高等学校教員を対 象に終日公開予定です。

科目 B	令和元年 8 月 26 日・27 日 1 限から 4 限 ( 9 : 00 ~ 16 : 00 ) 1 単位						
開講開始年度	2019						
授業コード	(記入無用)						
担当教員	荒川みどり、稲垣大輔、岩本和良、志村良浩、遠山菊夫、北村一真、倉林秀男、千野万里子、西山桂子、安江枝里子、海谷千波、藤田由香利						
科目	杏林ガイゴ・ライブラリー (科目 B)						
授業概要 (必須)	<p>①対象：「グローバル化」に疑問を持ち、新たな視座を提案しようとする者。</p> <p>②目的：「グローバル化」と呼ばれる現象の現状、課題、原因・背景を把握し、主体的に解決する知識と技能の素地を身に着けるとともに、英語で自分の考えや意見を表現できる。</p> <p>③内容：言語学 (英語・中国語)、社会言語学、音韻論 (イントネーション)、英語文化、英語学習、外国語教育 (英語・中国語・日本語教育)、文明論、多文化共生、観光文化論、航空サービス、ホテル経営など、様々な専門分野の視点から、「グローバル化」の課題に対してどのようなアプローチが可能かを探求する。</p> <p>④方法：Face-to-Face の学びの実践として、(ア) 大学教員と問答・対話するとともに、(イ) 受講生同士で協力し合いながら、参考文献を調べ、議論し、資料作成し、自分達の考えや意見を発表する。</p>						
到達目標 (必須)	「グローバル化」を題材に課題解決能力と英語表現能力の素地を修得する。						
授業計画 (必須)	<p>【1 日目】(各セクション 45 分、授業形式：キーワードに関する教員と受講生との問答や対話)</p> <p>第 1 セクション 全体説明及び全体講義 「グローバル化とその先へ」(担当者：講師・海谷千波) キーワード：政治・経済／画一化と多様化／グローバル化／多文化／コミュニケーション</p> <p>第 2 セクション～第 7 セクション 「読書 (=教員との対話)」</p> <table border="1"> <tr> <td>「私たちの生きる社会」(著者：教授・荒川みどり) キーワード：多文化共生／複言語コミュニケーション／言語マイノリティ／国境を越える人々／日本語教育</td> </tr> <tr> <td>「試験では問われない、でもとても重要な英語の側面」(著者：教授・岩本和良) キーワード：イントネーション／意味／選択肢／コンテクスト</td> </tr> <tr> <td>「航空業界から見るグローバル化」(著者：教授・志村良浩) キーワード：航空／観光／旅行／アライアンス／LCC／異文化</td> </tr> <tr> <td>「グローバル化と文明」(著者：教授・遠山菊夫) キーワード：コロンブス交換／高度消費資本主義／情報革命／国民国家の終焉／文明と言語</td> </tr> <tr> <td>「学習英文法で映画のセリフを理解する」(著者：准教授・北村一真) キーワード：英文法／実用英語／映画／リスニング／リーディング</td> </tr> <tr> <td>「公共サインとコミュニケーション」(著者：准教授・倉林秀男) キーワード：コミュニケーション／英語／外国人観光客／公共サイン／異文化・多文化へ</td> </tr> </table>	「私たちの生きる社会」(著者：教授・荒川みどり) キーワード：多文化共生／複言語コミュニケーション／言語マイノリティ／国境を越える人々／日本語教育	「試験では問われない、でもとても重要な英語の側面」(著者：教授・岩本和良) キーワード：イントネーション／意味／選択肢／コンテクスト	「航空業界から見るグローバル化」(著者：教授・志村良浩) キーワード：航空／観光／旅行／アライアンス／LCC／異文化	「グローバル化と文明」(著者：教授・遠山菊夫) キーワード：コロンブス交換／高度消費資本主義／情報革命／国民国家の終焉／文明と言語	「学習英文法で映画のセリフを理解する」(著者：准教授・北村一真) キーワード：英文法／実用英語／映画／リスニング／リーディング	「公共サインとコミュニケーション」(著者：准教授・倉林秀男) キーワード：コミュニケーション／英語／外国人観光客／公共サイン／異文化・多文化へ
「私たちの生きる社会」(著者：教授・荒川みどり) キーワード：多文化共生／複言語コミュニケーション／言語マイノリティ／国境を越える人々／日本語教育							
「試験では問われない、でもとても重要な英語の側面」(著者：教授・岩本和良) キーワード：イントネーション／意味／選択肢／コンテクスト							
「航空業界から見るグローバル化」(著者：教授・志村良浩) キーワード：航空／観光／旅行／アライアンス／LCC／異文化							
「グローバル化と文明」(著者：教授・遠山菊夫) キーワード：コロンブス交換／高度消費資本主義／情報革命／国民国家の終焉／文明と言語							
「学習英文法で映画のセリフを理解する」(著者：准教授・北村一真) キーワード：英文法／実用英語／映画／リスニング／リーディング							
「公共サインとコミュニケーション」(著者：准教授・倉林秀男) キーワード：コミュニケーション／英語／外国人観光客／公共サイン／異文化・多文化へ							

	<p>の適応</p> <p>「グローバル化と中国語」(著者:准教授・千野万里子)          キーワード:中国語/一带一路/国際公用語/漢字文化圏/日本語</p> <p>「ホテル産業のグローバル化」(著者:准教授・西山桂子)          キーワード:世界のホテルチェーン/グローバル経営/ホテルの投資と開発/ホテル運営</p> <p>「グローバル化で変化する日本の観光地の風景」(著者:准教授・安江枝里子)          キーワード:グローバリゼーションズ、観光地の風景、ゲストハウス、脱文脈化</p> <p><b>第8セクション 全体講義及び学習の振り返り</b>          「グローバル化と言語」(担当者:講師・藤田由香利)          キーワード:中国語/通訳/翻訳/教育/多文化</p> <p><b>【2日目】(各セクション45分、授業形式:「プロジェクト学習」(鈴木、2012)の手法を応用した受講生同士による議論、発表準備及び、発表)</b></p> <p><b>第1セクション 準備</b>(担当者:講師・海谷千波)          (1) 協働学習の流れを知り、題材を意識する。(1) 現実から課題を見出す。</p> <p><b>第2セクション ビジョン・ゴール、計画</b>(担当者:講師・海谷千波)          (1) グループの目的と目標を決める。(2) 課題を「具体的な目標」に変える。(3) ゴール達成への手順を考え、限られた時間ですべき優先順位を考え出す。</p> <p><b>第3セクション～第4セクション 情報・解決策</b>(担当者:講師・海谷千波)          (1) 情報を獲得し、グループで議論する。(2) 課題解決策を考え出す。</p> <p><b>第5セクション～第6セクション 制作</b>(担当者:講師・海谷千波)          (1) プレゼン資料を英語で制作する。(2) わかりやすい表現、瞬間的に伝えられる表現を工夫する。</p> <p><b>第7セクション～第8セクション プレゼン・コンテスト</b>(担当者:教授・稲垣大輔)          (1) グループの提案を英語で発表する。(2) 他グループの発表から自らの改善点を学ぶ。          (3) 自分の成長や考え方の変化などを確認する。</p>
<p><b>準備学習</b> (必須)</p>	<p>1日目の第2セクションから第7セクションまでの「読書(=教員との対話)」に備えて、各「本(=対話のテーマ)」のキーワードについて自分で興味関心を持ち、疑問点を調べ、質問を用意する。</p>
<p><b>テキスト</b> (必須)</p>	<p>なし。</p>
<p><b>参考書</b></p>	<p>1日目          「読書(=教員との対話)」を通して紹介される、専門書、論文、雑誌など。</p>

	2 日目 鈴木敏恵 (2012). 『課題解決力と論理的思考力が身につくプロジェクト学習の基本と手順』 教育出版株式会社.
評価方法 (必須)	1 日目の「学習ポートフォリオ」及び、2 日目の協働学習とプレゼン・コンテストを総合的に 評価する。
URL	
備考	3. 定員 18 名 (高校生のみ)。 4. 2 日目 (8 月 27 日 (火) 予定) の学習活動は、参加する高校生の所属高等学校教員を対 象に終日公開予定です。

<b>科目 C</b>	令和元年 8 月 29 日・30 日 1 限から 4 限（ 9 : 00 ～ 16 : 10 ） 1 単位
開講開始年度	2019
授業コード	(記入無用)
担当教員	三浦秀之准教授、北島勉教授、小田信之教授、知原信良教授、松井孝太講師、加藤拓講師、ミシェルジョエル講師、長谷部弘道講師
科目	英語と日本語で学ぶ「社会のしくみ」入門
<b>授業概要 (必須)</b>	本講義は、総合政策学部で開講されている GCP(Global Career Program)科目の一部を入門的に体験することができる、オムニバス形式の授業です。GCP は、グローバルに活躍できる人材育成を目的とした総合政策学部の選択プログラムの一つで、社会科学(政治、経済、法律、国際関係、経営、会計、福祉など)を英語で学ぶことができるよう、そこで開講されている科目授業は、英語で行われています。本講義では、これらの科目を担当している総合政策学部の教員が、英語で社会科学を学ぶための入門的な講義や演習の機会を提供します。(授業は基本的に英語と日本語の両方を用い、まずは英語で体験し、それを日本語で補足するという形式で行う予定です)
<b>到達目標 (必須)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科学系分野で使われる英語に慣れる。</li> <li>・現代社会における様々な社会事象や社会問題の基本を理解する。</li> </ul>
<b>授業計画 (必須)</b>	<p><b>8 月 24 日(金)</b></p> <p><b>第 1 回「貿易の基礎から米中関係を学ぶ」(担当者：三浦秀之)</b> 自由な貿易システムは国家の経済成長にメリットをもたらすものと考えられています。他方で、現在、多くの国が保護的な貿易措置を取っています。この結果、特に、米中関係は貿易をめぐるかつてないほど険悪な関係に発展しています。この講義では、貿易とは何か、なぜ自由貿易はメリットがあるのに国家は保護的な貿易的な措置を取ろうとするのか、貿易の基礎的な知識を学んだうえで現在の米中関係の課題を解説します。</p> <p><b>第 2 回「HIV/AIDS の世界的な状況について学ぶ」(担当者：北島勉)</b> HIV/AIDS は世界三大感染症の一つであり、これまで多くの人々の命を奪ってきました。最近では、「死の病」ではなくなりつつあるものの、世界では 4000 万人近い人々が感染しており、依然として大きな健康問題です。この講義では、HIV や AIDS とは何か、世界における現状、エイズの流行を終息させるための取り組みとその課題などについて解説します。</p> <p><b>第 3 回「企業の財務管理の手法を学ぶ」(担当者：小田信之)</b> 企業は、利益を得るために、さまざまなビジネスプランを考えます。あるプランを実行したとき、費用を上回る収益を獲得できれば成功と言えます。将来の収益には不確実性な面もありますが、的確な計画に基づいて、企業は「あるビジネスプランを実行すべきか見送るべきか」を判断しなくてはなりません。そのための基本的な考え方について解説します。</p> <p><b>第 4 回「税金について考える」(担当者：知原信良)</b> 税金は何のためにあるのだろう、税金がなくなればどうなるのだろう、という問いを出発点に税金について考えてみます。その上で、税制をめぐる特徴や課題を身近な例など具体的にみん</p>

	<p>なで考えてみたいと思います。</p> <p><b>8月30日(金)</b></p> <p><b>第5回「2020年アメリカ大統領選挙について考える」(担当者：松井孝太)</b>  アメリカは日本との政治経済的な結びつきが強い重要な国のひとつです。そのアメリカの指導者を選ぶ大統領選挙が2020年に実施されます。長くまた過酷なため、しばしばマラソンにも例えられる大統領選挙の仕組みについて、現在のアメリカ政治情勢の紹介を交えて解説します。</p> <p><b>第6回「マーケティングについて学ぶ」(担当者：加藤拓)</b>  マーケティングに関連する様々な用語や定義、基本的な原理などについてやさしく解説します。また、消費者の行動をどのように予測し、いかに企業の経営戦略を立案するべきかなどのテーマについても考えます。</p> <p><b>第7回「Repairing Communication Breakdown」(担当者：ミシェル・ジョエル)</b>  When we use a second language, there will always be things we don't understand or things we can't say clearly, so the most important skill when speaking another language is being able to negotiate meaning when we have a communication breakdown. Students will practice strategies that will help them figure out what someone is saying and explain their ideas when they don't have enough vocabulary.</p> <p><b>第8回「グローバルな人材の活用について考える」(担当者：長谷部弘道)</b>  グローバル企業は、どのように人的資源を管理しているのかについて考えます。企業は世界中で事業を展開するうえで、いかにして多様な現地文化を取り込んでいるか、また、どのような点で企業としての一致を図っているのかといったテーマについて解説します。</p>
準備学習 (必須)	新聞、テレビ、インターネットなどを通じて様々な社会現象に関わる情報を意識して入手するなど、日常生活の中で日々起きている出来事に対する関心を高めてください。
テキスト (必須)	プリント等を配布します。
参考書	
評価方法 (必須)	講義やアクティビティへの積極的な参加度、フォローアップレポートに基づいて評価します。
URL	
備考	